

米国で開催の巡回少女マンガ展示会プラン：

Power of Shoyo Manga: The Value and Contribution to Visual Culture and Society

1. 展示会目的と内容 (Purposes & Content of Exhibitions)：

1) 展示主題：The Power of Girl's Comics: What Can Shoyo Manga Tell You? - The Value and Contribution to Visual Culture and Society 「少女漫画の力：少女漫画は何を語るかー少女漫画の価値と視覚文化社会における貢献度」

2) 展示目的：少女漫画の価値と漫画界全体におけるその貢献度を紹介すること。また少女漫画の中で表現されてきた主題の変化を通して少女の夢（願望）の変化 (the change of dreams and expectations as female)、そして日本女性の役割 (the change of the role of women)、そして生き方の変化 (the change of women's life style) を問うこと。

昨今日本の漫画が世界において注目を集め、日本国内のみならず世界各国にて日本の漫画を紹介する多くの展示会が開催されていることは、周知の事実となりつつあります。しかし、まだまだ日本の漫画の歴史、特徴、そして社会における影響、可能性等について日本人の言葉として正しく紹介されているかどうかは、かなり疑問であると言わざるを得ません。例えば、漫画から発生した多くの商品（アニメーション、おもちゃ、コンピューターゲーム関連等）が米国に氾濫していますが、これらの元にあるものが漫画であるという事実が理解されているかどうか、米国一般の認識にはほど遠いものがあります。まして、日本の漫画の大きな特徴のひとつである少女漫画、そしてそれを実際描いてこられた方々の果たした役割と漫画全体における少女漫画の影響について、海外において正しく認知されているとはとても言えない状況にあります。この展示会を通じて少女漫画の価値と役割を語り、そして今後の方向と可能性を米国の聴衆に問うことが主な目的です。

例えば米国において、かつて存在していた少女漫画がその存在すら話題になっていない現状の中で、なぜ日本において少女漫画というジャンルが確立され、そして現在においても社会におけるその影響が甚大であるという事実はなぜなのか。多くの国にコミックというものが存在する中で、日本においてのみ発展拡大していった少女漫画の価値と意義、その社会における貢献度を再認識する作業は、日本の漫画が世界においても話題になっている今という時期に最も必要なことと考えられます。

またこれらの展示会が大学の展示場（美術館、ギャラリー）で無料で開催されるということに大きな意義があります。海外で開催されてきた漫画関係の展示会の多くは、一般の美術館を含む展示会場で入場料を徴収して開催されていたため、訪れる観客がもともと日本の漫画（ヤカルチャー）に興味を持っていた人々であったという点でその展示の目的である漫画の紹介と理解が限られた人々にのみ紹介され、一般に広がらなかったという事実があるといえるかもしれません。

米国の公立大学で開催される展示会を含むイベント施設は、公共に広く開放し、地域一般の啓蒙に貢献するという目的から無料で公開され、地域の教育活動と連携して利用されている点に特徴があります。米国の各地域の中心をなす大学展示会でこの少女漫画展が開催されますことで、多くの地域を超えた人々が訪れ、また各学校と連携した教育プロジェクトに利用されることが期待できます。その結果、少女漫画と作家の方々の貢献と価値を紹介理解してもらうという展示会の目的に対しまして、その影響はすぐに出なくても米国全体に将来において、確実に広がっていくことと多いに期待するところです。

3) 展示内容・構成：

少女漫画に関しまして多くのことを紹介することは可能ですが、まずは下記の3つの主内容：1) **主題の変化**、2) **漫画内に表現された少女像女性像の変化**、そして3) **少女漫画特有の漫画の文法（構成方法）の特徴** に重きをおいて戦後から現在にいたるまでの少女漫画の価値と役割について紹介したい。

また下記の3つの少女漫画のエポック時代（戦後から現在に至るまで）に大別し展示する予定。

23 Shojō Mangaka (Girls' Comics Artists): World War II to Present

1. 近代少女マンガの曙（Dawn of Modern Shōjo Manga）

- 男性作家による時代：手塚治虫、石ノ森章太郎、ちばひろし、松本零士（あきら）
- 女性作家による時代：わたなべまさこ、牧美也子、水野英子

2. 近代少女マンガ展開の時代（Development of Shōjo Manga）

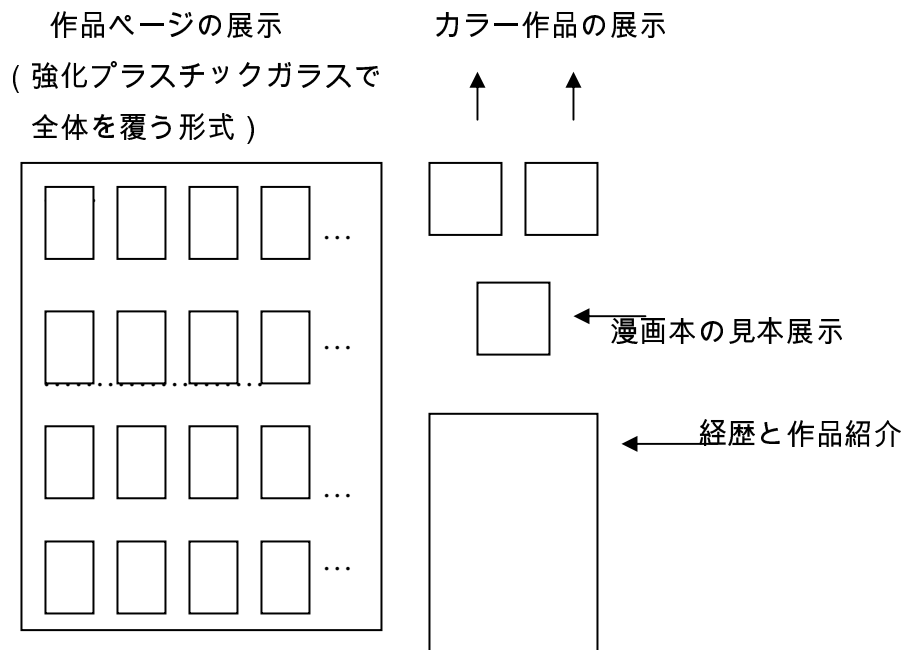
- 少女マンガテーマの多様化（Diversity of Shōjo Manga）：里中満智子、池田理代子、美内すずえ、一条ゆかり
- 24年組の出現（Showa 24 gumi: Magnificent 24s）：竹宮恵子、萩尾望都、山岸涼子

- ポスト24年組 (Post- Magnificent 24s): 佐藤史生、吉田秋生 -
- 乙女チック (Otometric Story): 陸奥 A 子、岩館真理子、くらもちふさこ

3 ニュージェネレーション：次なる時代へ

- 手塚治虫の影響を受けずに育った作家たち (Generation with the influence of Osamu Tezuka): 岡野玲子
- コミケ時代の申し子たち (Dojinshi Artists from Comic Markets in Japan): CLAMP, 今市子、よしながふみ

4) 展示方法：作品は作家別に下記のような状態で展示の予定。



2. 展示会背景 (Background Information) :

約10年前よりこどもの描画の発達論を研究して参りましたが、その結果から美術教育学において、一般的に言及されている「* こどもの描画発達の普遍性の理論 (これは描画表現の発達 はこどもの属する文化や社会環境の違いに左右されないというものです。)」に異議を唱えることになりました。その根拠となりましたのが、他国のこどもたちの描画には見られない、日本人のこどもの描画上にのみ顕著に現われる漫画の影響です (特に日本人のこどもの空間の表現方法に、その顕著な差が見られました)。描画の発達理論における文化的特異性の問題、またこどもの描画に影響を与える美意識の発達という観点から、日本のこどもたちの描画に最も影響を与えた漫画の媒体性に興味を持ち、他のメディア媒体 (例えば米国の

コミックなど)と比較しながら漫画の特異性とは何なのか、を現在研究しています。我々を取り巻くこの世界に多くのメディアが存在する中でなぜ漫画なのか、また漫画の影響とはどのような形で子どもたちの描画にそして認知の発達課程で現われるのか、等々興味はつきません。

それではなぜわざわざ米国で今、「少女漫画展」なのか？

米国の美術教育界の中で、この10年最もホットなトレンドなテーマは「視覚文化芸術 (ヴィジュアルポップカルチャー: VISUAL POP CUTURE) というもので、通常我々の生活の中で頻繁に目にする大衆文化芸術全般を指し、日本の漫画やアニメーションもこのテーマの範疇に入ります。このテーマの目的は、美術教育の中で歴史的に評価の定まった芸術を語り、それに関連した形で美術教育の指導をのみ行うのではなく、我々の身の回りにある、そして最も影響の強い大衆文化芸術を教育の中に取り入れることにより、芸術と社会の関連性、さらに大衆文化の価値とその貢献を読み取っていく力を養っていくというものです。そうした米国の美術教育とも重なって、私が本格的に漫画について研究をしはじめた2000年頃より、いつかは日本人のそれも女性の手で海外で少女漫画展を開催をという構想が広がっていき、また多くの方々の協力の元、米国の大学で少女漫画の巡回展の企画が昨年2003年頃より本格化しました。

今まで米国において、日本の漫画における少女漫画の担った役割についてはありませんでした。しかし少女漫画の果たした役割、価値を考える時、その漫画界全体における貢献の大きさは疑う余地のないものです。現在米国において、オンラインブックサイトであるアマゾンドットコムで「MANGA」と打ち込むだけで600冊近くにも及ぶ英語での漫画関連の本が出版されている現在(2005年、1月確認)、その中で何冊が少女漫画に重きをおいて語っているのでしょうか。少女漫画を愛する一ファンとしてそして少女漫画により夢を与えてもらった人間の一人としてこの展示会をよりよいものにしたいと心から願っています。

3. 参加作家リスト:

少女漫画界に貢献された多くの作家の方々の中から後記の理由(1、私が読んで好きなストーリー作家 2、その時代時代に最も影響のあった作家 3、現在もその影響が大、もしくは活躍が続けられている作家の方々)で約20人程の方々に参加をお願いいたしました。多くの重

要な方々が漏れていることにお気付きのことと思います。スペースに限りがある等のことより大変主観的な選択であること（また諸事情により限られた日程の中でコンタクトできなかったこと）をどうかお許しいただき、またご了承いただければと思います。